

第16回

内田修ジャズコレクション

「日本のジャズ」胎動期の現場を記録した
唯一の史料

ジャズミュージシャンたちが自分たちの音楽を模索し、意見をぶつけ合い、演奏し、手探りに藻掻いては、また演奏の場へと立ち向かっていた時代。日本におけるジャズの転機とも言える、1950年代から70年頃。

愛知県岡崎市の有する「内田修ジャズコレクション」は、いま私たちが当時を知る手掛かりであり、また彼らジャズミュージシャンを見守り寄り添い続けてきた内田氏の想いである。佐藤允彦氏と大友良英氏、異なる世代のミュージシャン二人によって、内田修ジャズコレクションを紐解き、資料を未来へ繋ぐ手掛かりを考える。

ドクター・ジャズ 内田修氏

2024年

3月3日(日)

開場 14:30 開講 15:00

(16:30 終了予定)

講師

ピアニスト/作・編曲家
佐藤允彦音楽家
大友良英

会場：岡崎市図書館交流プラザ スタジオ1

定員：100名

入場料：2,000円(要事前申込)

生演奏あり

申込方法

1. 「あいち電子申請・届出システム」から申し込み。▶
2. 参加者全員の、①郵便番号 ②住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤電話番号(学生のみ⑥学校名 ⑦学年)をご記入の上、はがき・FAX・メールで申し込み。

[はがき] 〒444-0059 愛知県岡崎市康生通西4-71

[FAX] 0564-23-3165

[メール] info-libra@dr-jazz.jp

生涯学習課「ジャズセミナー」係 宛

締め切り 2024年1月31日(水)【当日必着】

※定員を超えた場合抽選、結果は全員に郵送にてお知らせします。





佐藤允彦 Satoh Masahiko (ピアニスト／作・編曲家)

1941年東京生まれ。慶應義塾大学卒業後、米国バークリー音楽院に留学、作・編曲を学ぶ。帰国後、初のリーダー・アルバム『パラジウム』でスイングジャーナル誌「日本ジャズ賞」受賞。その後も数々のアルバムを制作し、国際的にも高い評価を得ている。1997年に自己のプロデュース・レーベル〈BAJ Records〉を創設。

最近では、バーチャル・シンガーの初音ミクとのコラボレーションで音楽監督を務めるなど、その活躍はますます多面化するばかりである。

1993年、「ジャンル、技量にかかわらず、誰でも参加できる即興演奏」を目指すワークショップ【Randooga】を開始、フリー・インプロヴィゼーションへの簡潔なアプローチ法を提唱している。

■ http://www.mmjp.or.jp/m_satoh/



大友良英 Otomo Yoshihide (音楽家)

1959年横浜生まれ。

映画やテレビの音楽を山のように作りつつ、ノイズや即興の現場がホームの音楽家。ギタリスト、ターンテーブル奏者。活動は日本のみならず欧米、アジアと多方面にわたる。美術と音楽の中間領域のような展示作品や、一般参加のプロジェクトやプロデュースワークも多数。震災後は故郷の福島でも活動。その活動で2012年には芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門を受賞。2013年「あまちゃん」の音楽でレコード大賞作曲賞を受賞。2017年札幌国際芸術祭の芸術監督を務める。2019年NHK大河ドラマ「いだてん」の音楽を担当。また福島市を代表する夏祭り「わらじまつり」改革のディレクターも務めた。

■ <https://otomoyoshihide.com/>

“内田修ジャズコレクション”とは



1993年1月11日、岡崎市内で外科医を営んでいた内田修氏が病院を閉院するにあたり、レコード約12,000枚をはじめ、オープンリールテープ、雑誌、オーディオ機材など膨大な資料を、岡崎市に寄贈したのが始まりです。2010年には、CDを中心とした新たな資料が加わりました。

ジャズに関するチラシ類、書簡、手稿や写真など多彩な資料群も含んでいるのが、コレクションの独自性です。日本のジャズの歴史の検証資料として、また音楽文化の資産として、保存整理が続けられています。

過去の内田修ジャズコレクションセミナーをYouTubeにて動画公開中！

第14回：

対談「内田修ジャズコレクションの価値とは」

■講師：大友良英（音楽家）、細田成嗣（音楽批評／ライター）



第15回：「プライベートテープが語る

ここにしかないジャズの歴史」

■講師：大友良英（音楽家）、細田成嗣（音楽批評／ライター）



りぶら
libra
岡崎市図書館交流プラザ

〒444-0059

愛知県岡崎市康生通西4-71

TEL:0564-23-3100 (代表)

